

在ペナン総領事・町田です。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

令和7年（2025年）9月が終わりました。日本ではやっと秋への入り口、ペナン／マレーシアでは本格的な雨季シーズンへの入り口でしょうか。今年の11月にはペナンを始めとする各地で水の被害が少ないことを祈念いたします。そして、ドリアンの小シーズンが来ますように・・・。

9月の日本で出来事については、6日に悠仁親王殿下の成年式が古式ゆかしく挙行されたことが最も大きなことであつたと思います。皇位継承順位2位の殿下は筑波大学で学業に励まれておられます。親王殿下及び我が国の弥栄を祈念いたします。日本では、政治状況が大きく動いております。日本の将来に大きな影響がある自由民主党総裁選の結果はこの報告発出時には決まっていると存じます。一公務員としてその結果についてコメントすることは差し控えますが、「民のかまど」の故事を想起し、日本国民のために働くべき者は身を律して精一杯働くべきと存じます。

世界に目を転ずれば、ここ数年の間継続している問題（特に、ウクライナ戦争、ガザ紛争）には解決に向けた兆しが見えません。本年を通じて話題となっているトランプ関税について我が国等との間で決着を見ましたが、その米国等での影響は明らかになるのはやや時間がかかるかもしれません。日本も関与している各種新技術の開発が実用化し、世界を良い方向に変えていくのにもまだ時間が掛かりそうです。ただ、9月は幾つかの国において、自国政府への批判が先鋭化した時でもありました。私が勤務した経験がある某国では、エリート政治家が殴打され、家が放火される等の騒乱がありました。様々な事象を捉えて発生する様々な抗議活動等は我々には見えない（あるいは我々が敢えて見ようとしない）新たな潮流の兆しかもしれません。

今後とも、我々日本人は、世界の情勢を曇りなき眼で見据え、我々に影響のある事象に耳をそばだて、主張すべきは主張して日本の利益を確保しなくてはならないと思います。総領事館もペナンにおいて、微力ながら日本のためにし

っかり働いていきたいと思います。私は、日本の安全・安心の確保の為に日夜働いておられる皆様を陰ながら支持しております。

以下、9月の総領事（館）の主な活動報告をいたします。

ペナン外への出張等については、

9月6日から7日まで、ペラ州タイピン及びイポーに出張し、両市における日本人墓地の慰霊祭に参列しました。タイピン市における墓所は長くその場所が分からなくなっており、また、見つかった後も荒れ果てていたところを現地在留邦人及び現地進出日本企業のご尽力によって、その殆どがイポー市の日本人墓地に移葬され、タイピンには美しい墓碑と立派な記念樹が植えられておりました。イポーにおいては、日本人会会員を始めとする方々20名の皆様と共に、広大な敷地に眠るイポーを中心とした各地の御霊に手を合わせる事ができました。



（←タイピン日本人墓地）

（↓イポー日本人墓地）



9月22日から26日の間は、大阪・関西万博の「ペナン・ウィーク」を機に訪日したチョウ・コン・ヨウ首席大臣の招きに応じて同行出張し、大阪での各種会合等に同席しました。22日及び23日の間は、首席大臣と共に、日本、フランス、ドイツ、UAE、中国の各館を視察しました。また、独自の日程として、同日、大阪大学吹田キャンパスの工学研究科を訪問し、マレーシア科学大学（USM）との協力窓口となっている先生方と面談・意見交換しました。大阪大学・USMは大学院博士課程のデュアル・ディグリー・プログラムを有しており、今後の更なる提携関係の強化が期待されます。24日には、マレーシア館におけるペナン・ウィーク開会式、ペナン投資セミナー等に同席しました。25日には、大阪府市も関与する先端的な医療研究機関

「Nakanoshima QROSS」及び吹田市リサイクル・センター視察に同行しました。また、26日には、首席大臣が関西国際空港を訪問し、今回PDC（ペナン開発公社）がMOUを締結したFEDExの施設を視察するのに同行しました。なお、同日、私独自の日程として、大阪市の国際交流・都市間交流関係の幹部を訪問し、今後のありうべき大阪・ペナン関係交流の可能性について意見交換しました。首席大臣一行と別れた後には東京に赴き、29日には日本・マレーシア協会幹部、30日には、「日本水フォーラム」幹部、某コンサル企業幹部と面談・意見交換しました。今回の出張では、内外関係者との人脈を広げ、ペナン州政府の政策の優先順位を再確認ができ、また、日本とマレーシア／ペナンとの関係促進のための意見交換などができました。今後、適宜フォローアップをしていきたいと存じます。



（↑マレーシア館「ペナン・ウィーク」にて）



（↑Nakanoshima QROSSにて）

この他、総領事館においては、領事関係業務などで必要な出張を行なっています。

政治・行政・経済面では、

9月5日には、ペナン選出の連邦議員（閣僚）と親しく懇談し、ペナン／マレーシアの今後の姿とありうべき双方の協力関係について意見交換することができました。9日には、「Canon Think Big Series 2025 – Penang Edition」に出席しました。当地知識人を招いた日本企業のスマートな知的取り組みとして大変面白かったです。



（↑「Canon Think Big Series 2025 – Penang Edition」）

12日には、ズルキフリ・ペナン州官房長に表敬しました。ペナン州公務員トップの人物であり、今後、関係を深めたいと思います。また、同日午後には、チョウ・コン・ヨウ・ペナン州首席大臣と面談しました。過去9ヶ月強の私のペナン勤務経験を踏まえ、また、22日から26日の大阪・関西万博「ペナン・ウィーク」に際しての首席大臣訪日に向けて、今後の日本・ペナン／マレーシア関係について親しく意見交換いたしました。16日は、バタワースにおける「マレーシア・デー」行事に参加しました。多くの場合、サバあるいはサラワクで挙行されるこの行事には、ペナン州州長、チョウ首席大臣に加えて、サバとサラワクの首席大臣も出席されていました。18日には、ペナンの

水道供給会社のPBAホールディングス社のCEOであるパスマナサン氏に表敬し、ペナンの水道事業について聴取しました。



(↑ズルキフリ・ペナン州官房長と)

(↑PBAのパスマナサンCEOと)

今後とも、当地行政機関等と関係を深めてその課題を把握し、それを当地の日本人・日本企業の皆様の役に立てることができればと思っています。

日本人社会との関係では、

9月4日、ペナン日本人墓地における秋季慰霊祭に参列いたしました（遅参をお詫びします）。今月のペナン日本人会理事会は、本邦出張のため欠席しました。

領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは総領事館業務の「一丁目一番地」です。今後とも精一杯励んでまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

文化交流・報道・学術交流関係では、

9月3日、USM言語学部等が主催する「10th International Language Learning Conference 2025」の開会式に出席しました。USMについては、人

文系学部についても協力できる分野がありそうです。

17日、KLの国際交流基金事務所が主催する「日本映画祭」のプレ上映会がジョージタウンの「Hin Bus Depot」で開催され、「リバー 流れないでよ」を鑑賞しました。日本映画祭はKL及びクチンで大々的に実施されていますが、ペナンにおいても盛り上げていきたいものです。19日には、交代する国際交流基金KL事務所副所長が来訪されました。基金事務所とは、「日本語パートナーズ」や小規模事業支援事業など、日本文化紹介の観点から協力できる部分が多いです。今後とも、限られた資源を人脈で補強しつつ当地での日本の好感度を上げる努力をしていきたいと思います。20日、ガーニープラザで実施されていた「日本映画祭」で、「花まんま」を鑑賞しました。直木賞受賞作を映画化したこの作品は、「リバー 流れないでよ」と同様の佳作であり、日本映画の良さを十分に示したものと言えます。基金関係者のご尽力に感謝いたします。



（↑日本映画祭にて。当地映画監督と）



（↑「マレーシア・デー」での舞踊）

総領事館としては今後とも、日本文化紹介及び日本・マレーシア交流促進のために尽力する所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！

10月以降も、日本とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動を

されるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻
をお願いいたします。